

環境影響評価審査書

103 佐島の丘開発事業

I 総括事項

佐島の丘開発事業（以下「本件事業」という。）は、京浜急行電鉄株式会社が、横須賀市佐島2丁目1番1他の41.6ヘクタールの土地において、健康・文化・交流の拠点と高齢化社会における健康志向の住宅地を形成するため、健康文化交流センター用地、住宅用地、道路及び公園等の整備を行うものである。

実施区域は、横須賀市の西部、大楠山の南西方向約3キロメートルに位置しており、地形は標高約60～70メートルの丘陵部と低地の谷戸部が入り組んだ形状を呈している。実施区域の周辺は、南側に小田和湾が広がり、湾に面して佐島漁港や住宅が立地している。南東側には電力中央研究所等の研究施設が集中し、北西側から南東側にかけて国道134号が通り、沿道には市街地が形成され、さらに北側には大楠山に連なる山林が広がっている。

実施区域の現況は、約7割が森林で、丘陵部を中心にオニシバリ・コナラ群集やクサイチゴ・タラノキ群集等の二次林となっているが、丘陵部の平坦地は畑地として利用され、中央にある谷戸部は残土で埋め立てられ荒地となっている。また、実施区域は、大楠山に連なる丘陵から国道134号及び市街地をはさんだ飛地的な緑地となっており、猛禽類等の広い行動範囲をもつ生物の採餌場や移動中継地としての役割を担っていると見える。

本件事業は、このような実施区域において、規模の大きな土地の形状の変更を行い、住宅関連用地を造成する計画である。

したがって、本件事業の実施に当たっては、次の基本的視点に十分配慮し、周辺環境への影響を軽減するため、最大限の環境保全対策を講じるとともに、供用開始後においても、引き続き環境の保全に努める必要がある。

- 本件事業の実施に当たっては、実施区域周辺の生態系への影響を極力軽減し、自然環境の保全や創出に十分配慮する必要がある。
- 創出する自然環境は、将来にわたって維持管理することが重要であり、供用開始後の維持管理計画を綿密に策定する必要がある。
- 事業着手前、工事中及び供用開始後における動植物の状況等について、きめ細かなモニタリングを実施する必要がある。
- 工事用車両による騒音や振動、交通安全、降雨時の濁水発生等、工事中における近隣地域の生活環境への影響を極力軽減するよう配慮する必要がある。

基本的な視点は以上のとおりであるが、本件事業の環境影響予測評価書案に係る各評価項目等についての個別的な審査結果は次のとおりである。

事業者は、環境影響予測評価書の作成に当たっては、これらの内容を十分に踏まえ、適切な対応をする必要がある。

II 個別事項

1 水質汚濁

工事中の降雨に伴い発生する濁水対策として、仮設沈砂池・調整池を設置し、土砂を沈降させた後に上澄水を放流するとしているが、小田和湾等へ濁水の影響を及ぼさないようにするため、濁水濃度について、精度の高い測定方法等を含め、具体的な管理方法を検討すること。

また、分離後に生ずる汚泥の処理方法について明らかにすること。

2 騒音、振動

工事中については建設作業機械による騒音、振動の予測評価を行っているが、工事用車両からの影響も懸念され、さらに道路交通騒音の環境基準が等価騒音レベルとなったことなどから、工事用車両の通行による道路交通騒音、振動についても適切な箇所を選定したうえで、予測評価を実施すること。

3 植物・動物・生態系

(1) 注目すべき種の選定について

哺乳類では注目すべき種として、食物連鎖の上位性を考慮しタヌキを選定しているが、自然改変の影響をより受けやすいイタチについても注目すべき種として追加すること。

また、イタチの生息環境の保全や復元などの方策も検討すること。

(2) 鳥類の調査について

審査意見書に基づいて鳥類の調査を行っているが、実施区域は大楠山から延びる樹林に近接していることを十分認識したうえで、これらの樹林と実施区域との関係に着目した調査方法等の詳細を明らかにし、再調査を実施すること。

(3) 植物の移植及びモニタリングについて

注目すべき植物種及び植物群落については移植を行い、工事完了時及び供用開始後において事後調査を実施しているが、植物群落の移植に当たっては主要な構成種を可能な限り移植することとし、その後の生育状況を的確に把握するため、工事期間中においても事後調査としてのモニタリングを行うこと。

また、その実施方法を具体的に明らかにすること。

(4) ノスリの生息環境の保全について

ノスリ等の猛禽類について供用開始後には現状と同程度の飛来する状態が回復されるとしているが、ノスリについては警戒心が強いことから、生息環境の保全や復元などの方策を検討すること。

(5) 昆虫類の生息地の保全について

水辺に生息する昆虫類は、実施区域内に整備する親水公園に、谷戸の湿地土を移植することなどにより供用開始後の再現が期待できるとしているが、注目すべき種のうち、特に湿地環境に生息するヘイケボタルの保全・繁殖方法について検討すること。なお、ヘイケボタルの生息には止水域の維持管理が重要であり、その方策も具体的に明らかにすること。

さらに、実施区域内にはダビドサナエ等、三浦半島における貴重な昆虫類が確認されていることから、これらの生物の生息環境を十分把握したうえで、その生息地の保全方法を検討すること。

4 安全(交通)

(1) 予測方法等について

工事中の関係車両の走行により、実施区域周辺の現況交通に著しい影響を及ぼさないとしているが、その根拠となる飽和交通流率及び限界交通量について、ピーク時の設定方法等を含めた計算方法を示したうえで、具体的に明らかにすること。さらに、供用開始後の交差点の飽和度がかなり高くなる地点もあるので、歩行者の安全も考慮した予測評価を行うこと。

(2) 周辺開発を含めた影響について

工事用車両は、工事着手後19ヶ月目に最も多くなるとして予測評価を行っているが、近隣地域において、横須賀市芦名地区産業廃棄物最終処分場の建設事業が計画されており、両事業の予測評価書案によれば、これらの事業の工事中におけるアクセスルートが競合する計画であることから、その影響も考慮に入れた予測評価を行うこと。

5 その他(親水公園)

親水公園において、自然生態系の多様性の維持または回復が可能な湿地環境を整備するとしているが、この整備目的を踏まえた適切なゾーニングや機能設定を行うこと。特に水系の確保及び集水方法については、良好な湿地環境を

維持するための重要な要素であることから、これらの維持管理計画を策定すること。